



鶏 けいめい 鳴

2008年6月8日(第14号)

イエスの言葉

「わたしを見た者は父を見たのだ」
聖書(ヨハネ福音書14章9節)

牧師 河合裕志

「神がいるなら見せてくれ」と時に人は口にしたりする。「そんなものは所詮いるものではない」と言って多くの人が、無神論に流れる。これはしかしもともと云えそうだ。神なんて抽象的、観念的、雲をつかむような話だから。

ある時イエスの弟子のフィリポがイエスに言った。「主よ、私達に御父(神)をお示してください。そうすれば満足できます」。フィリポにとっても神は雲をつかむような話だったのだろう。イエスの口から時々聞かれる天の父の存在がいまいちはっきりしなかった。

これにイエスは何と答えたか。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに私がかかっているのか。わたしを見た者は父を見たのだ。わたしが父の内におり父がわたしの内におられることを信じないのか。わたしがあなた方に言う言葉は自分から話しているのではない。わたしの内におられる父がその業(わざ)を行っておられるのである」。

わたしイエスを見た者は父なる神を見たことなんだ、わたしと父は一体なんだ、わたしは天の父をこの地上にあつて写すものだ、わたしを見れば神がどういう存在なのかわかる筈だ、神を見たければわたしを見よ—こうイエスは言ったことになる。よく

もこんなたいそれたことが言えたもの。だからユダヤ教指導部によって神をけがす者としてマークされることになる。

イエスは神の生きた姿か。それは四つの福音書に記されているイエスの言動を調査することにより明らかにされる。イエスの内に父が、神が宿っているのか。父なる神がイエスを通してそのわざを行っているのか。結論的にはそう言わざるを得ない。多くの病人や障害者をいやす奇蹟、汝の敵を愛せよ、と言った感動的な教えの数々、罪ある人々を招き赦す者、こうしたイエスの行状に人間レベルを超えた存在を感じざるを得ない。天の神がイエスを通して見える形でこの世に進み寄って来てくれたということ。

私達は時に神なんかいないのではないかと思ってしまう。しかしそんな時イエスを見ること。イエスを見れば彼の内に神が現にいて働いていることがわかる。イエス抜きではついに神の存在はアイマイモコになってしまう。イエスを見よ。どこに? 聖書の中に。聖書を持っているなら—多くの日本家庭には聖書が埃をかぶっている—開いて確かめよ。聖書は決して裏切らない。

集会案内

主日礼拝	: 毎日曜日	午前10時15分
こどもの教会	: 毎日曜日	午前9時
高校生会	: 第日曜日	礼拝後
婦人会・壮年会	: 第2日曜日	礼拝後
聖書を学ぶ集い	: 第4水曜日	午前10時
オリブの会(読書会)	: 第3月曜日	午前10時